

## 1 班 テーマ 3 【A 案】

### ①背景：

今、我が国においては、M&A の件数が増加傾向にある。その背景として、中小企業の後継者不足や大企業の事業ポートフォリオ再編等が挙げられる。我が国における M&A においては 買い手における買取金額が買われる企業の時価純資産よりも大きい場合にはのれんが生じ、定期的に費用処理される。しかし、日本のスタートアップ関係者からは「のれん償却は営業利益を押し下げため M&A の阻害要因になっている」との意見も出ている。 M&A は我が国においてこれからも増加していくと考えられ、公認会計士として必ず検討することとなるであろう科目であることから、日本基準と国際基準についての理解を深めるために 2 作問をした。

### ②企業に与える影響：

- ・ 毎期恒常的に償却費用が発生するため MA の障害になると考えられているが非現金支出項目であることから資留保効果を得ることが出来る。
- ・ 利益の予測可能性⇒毎期の償却額が確定しているため投資家にとって将来の利益予測が立てやすくなる。(ボラティリティの低下)
- ・ 投資コストを回収するための企業経営意識が高まる。(収益性の高い投資案へ投資するよう促す)

### ③のれんを定期的に償却すべき論拠：

- ・ のれんは取得原価の一部であり、償却しなければ収益と費用が期間的に対応しなくなる
- ・ のれんを償却しなければ資産の過大計上となり、時の結果と共に自己創設のれんに置き換わる(経営者の自己評価を意味する)⇒事実の開示ではなく、概念フレームワークの財務報告の目的に反する
- ・ のれんの効果が及ぶ期間及び減価のパターンは合理的に予測可能なものではないため、定期的に償却した方が価値の減少を合理的に反映することが出来る。
- ・ 非償却とする方法は経営者による利益操作が可能である。

### 意見：

規則的な償却に賛成である。

参考文献：FASF 「第 54 回企業会計基準諮問会議」